

令和 7 年度第 4 回印西市環境推進会議視察研修 報告・感想

久保 蘭 彩子

- ◆目的：環境に関する先進地等を視察することで、知識を深めるとともに、
今後の環境基本計画の推進に向けた取り組みの検討や、
市民への普及啓発に役立つ情報の収集を目的とする。

◆場所：谷津ミュージアム（我孫子市）

◆日時：10 月 15 日（水）9:00～12:00（視察：9:30～11:30）

1. 谷津ミュージアム概要
2. 現地視察の様子
3. 感想

1. 谷津ミュージアム概要

主体：我孫子市環境経済部手賀沼課・会員 57 名、他関係団体（次ページ図参照）

場所：我孫子市岡発戸・都部地区の谷津 36.7 ヘクタール

※土地所有：ほとんどが民地・農地。市が借用＋営農維持支援として補助金支払。
開始時期：2002 年～（当時市長：福嶋浩彦氏）

背景：岡発戸・都部地区は従来の水田形態や斜面林が保存され、貴重な生物が生息する区域。反面、水田耕作の機械化や大型化に対応しにくい土地条件でもあった。周辺の市街化が進み、住民は宅地開発をしようと土地区画整理準備組合をつくり、市も市街化区域への編入の検討を行おうとしていた。

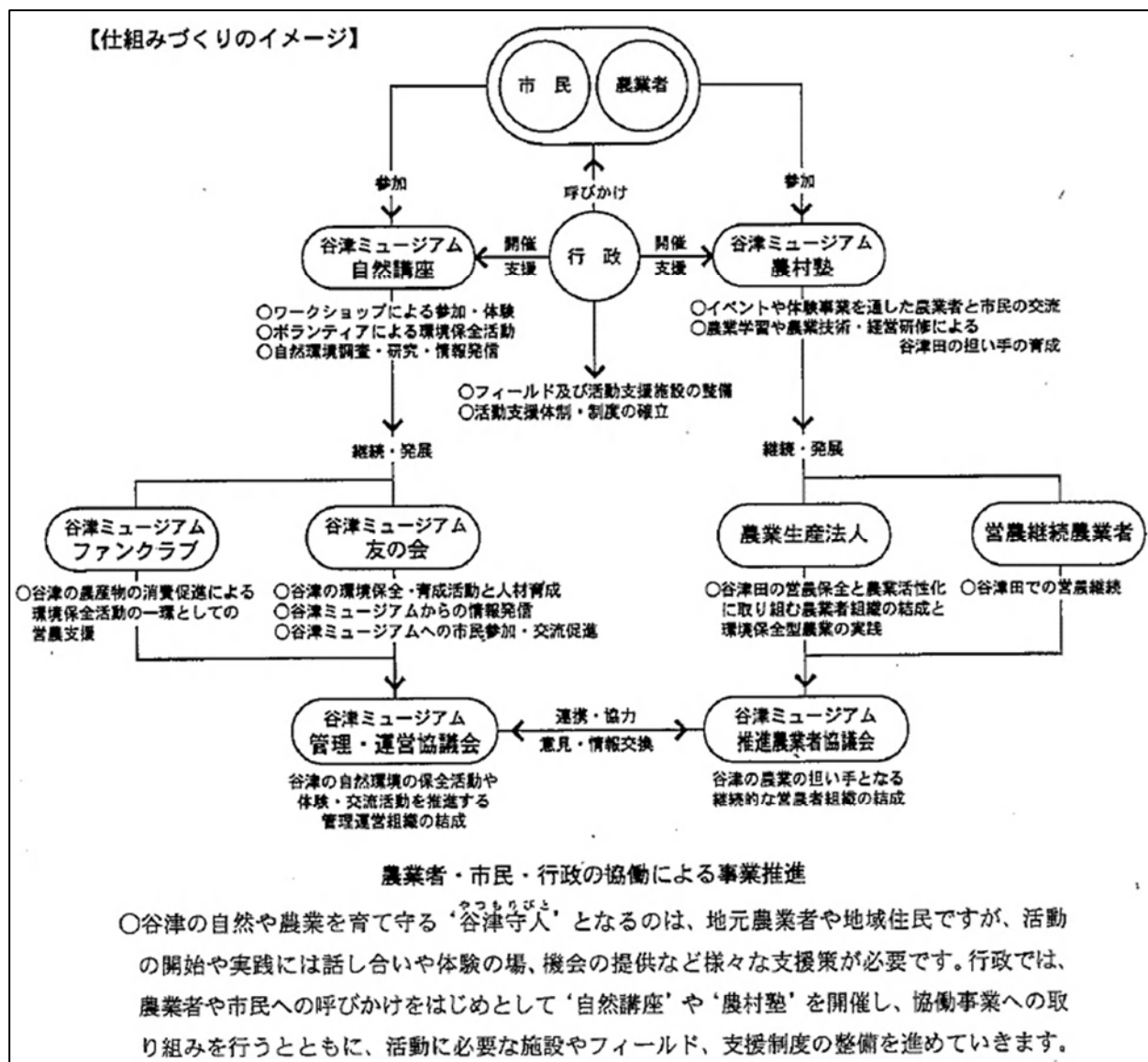
しかし、以下をふまえ、市街化は阻止された。

★2001 年度に策定された環境基本計画で、まちの構造づくりを「我孫子の自然構造を活かした環境軸（S 字構造）」の形成としてまとめ、岡発戸・都部で谷津ミュージアムの整備を行うと明記・位置付け（添付資料参照）

★2002 年度に策定された第三次総合計画や都市計画マスタープランで、
「自然的土地利用がなされている地区では、良好な自然環境を最大限保全し、都市的土地利用を抑制」し、「原則として現状の市街化区域の規模を維持」することとした

市は、昭和 30 年代の農村環境の復活をめざす「谷津ミュージアム事業構想」を策定。地権者、農業者との調整を行った。

（参考：「我孫子市谷津ミュージアム事業構想〔改訂版〕2003 年 3 月」）



(出典：「我孫子市谷津ミュージアム事業構想〔改訂版〕2003年3月」p68)

概要：谷津田を、米を生産する場であるだけでなく、様々な生き物を育む場とし、その自然環境を再生・伝統的な農業やくらしの風景を復活させ、まるごと「野外博物館」にしていくもの。市民と自然とのふれあいや自然観察、農業者と消費者の交流を図る。

活動概要

頻度：活動（週2日9時～12時）、運営委員会（2～3ヶ月ごと）、総会（年1回）
 拠点：谷津ミュージアム作業小屋（市が整備・管理）
 内容：草刈り、畑作業、水辺づくり、生き物調査
 イベント：秋の収穫祭（谷津まつり）や谷津展の開催（夏）
 他、小学校の体験学習（観察会・ザリガニ釣り）等を年4回×2校受入

2. 現地視察の様子



市が整備・管理する作業小屋。
景観にマッチした古民家風。



コンクリート護岸を多自然型護岸整備
モデル事業として再整備。



民地に立ち入る際の注意事項。
園路の各所に設置。トラブル防止に。



遮光シートによりナガエツルノゲイト
ウの駆除試験を行った場所。成果有。



ヘイケボタル生息場所。左手は保全さ
れた斜面林。ゴルフ場と反対側。



水辺と親しめる擬木の栈橋のひとつ。
事業開始当初に市が整備。

※事業発足後、開発の危機にさらされることもあったが、周辺の宅地に住むようになった住民が住環境を守るため反対したこともあり、開発を逃れたというお話もあった。

3. 感想

1) 今後の環境基本計画の推進に向けた取り組みの検討について

まず、市が、環境基本計画において、保全すべき環境を、面的に「環境軸」として位置付け、具体的な概念図を作成し、都市計画マスタープランとの整合性をとっていることに驚いた。

印西市の環境基本計画において、都市計画と関連が強いのは、基本目標 1・2 であり、個別目標と施策が記載されている。

基本目標 1	豊かな自然の恵みを受け潤いと安らぎを感じられるまちづくり（自然環境）
基本目標 2	安心で快適なずっと住み続けたいと思えるまちづくり（生活環境）

しかし、概念的な事項にとどまり、市内のどこを対象として、優先的に、何にどう取り組んでいくのか、タイムライン等、行動レベルの具体的な記載がない。

都市計画マスタープランでは、ニュータウン以外は市街化調整区域としか位置付けられておらず、実質的には 40 戸連たん制度により市街化が進み、環境基本計画の目標とは真逆の方向に進みつつある。

以上を踏まえ、市には下記を求めたい。

- ・ 環境基本計画の実効性を強化するため、施策を具体化する。
積極的な保全地区の位置付けや、利根川や印旛沼の水系が育んできた里地・里山環境を保全する新事業も検討してほしい。
- ・ 環境基本計画において、市内で保全すべき環境を位置付け、視覚的に分かる環境基本計画構想図を作成してほしい。
- ・ 都市計画マスタープランとの整合性をとるため、環境基本計画にもとづき、都市計画課に積極的な働きかけをしてほしい。

2) 市民への普及啓発に役立つ情報の収集について

市の環境保全事業や市民活動として参考になりそうな事項

- ・ 谷津ミュージアムは市が中心となり始めた事業。事務局は市である。年間 40 万円の負担金協定で備品整備などを行う他、土地所有者には営農支援の補助金も。
- ・ 感じた課題
会員の高齢化、農家の担い手問題、活動の縮小、通信は紙媒体のみでネットや SNS は未活用？、予算の減少（当初は 7000 万円ほど予算がついたとか。今は借地料・補助金の他は、負担金の年間 40 万円が基本）

2. 谷津ミュージアム事業構想の位置づけと目的

1) 環境基本計画における谷津ミュージアムの位置づけと役割

- ・岡発戸・都部の谷津は、かつては我孫子市内に多く見られた谷津田の中で、南北を斜面林に挟まれた豊かな自然とともに、水田耕作が盛んであった往時の面影を残す貴重な環境資源です。
- ・我孫子市環境基本計画では、我孫子の地形を活かした環境づくりの骨格として、「手賀沼沿い環境軸」「利根川沿い環境軸」「南北をつなぐ環境軸」の3つの環境軸を位置づけています。この中で谷津ミュージアムは、手賀沼と古利根沼・利根川を結ぶ「南北をつなぐ環境軸」を形成する「谷津・里山の復元による農と環境の拠点」としての役割を担っています。
- ・また全市の生物生息空間のネットワークづくりや全市ハケの道づくりの中でも重要な拠点となっています。

